

平成 31 年度 公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 新現代社会」(第一学習社)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・毎時間の課題の取り組みについては、関心や意欲を重視して評価します。
- ・教科書読みや、発問に対する回答など意欲的に授業に取り組む姿勢を評価します。

2 学習の到達目標

広い視野に立って、現代の社会が直面する諸問題や人間の発達についての理解を深めさせ、それらを主体的に考察し公正に判断する力を培う。また、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用 of 技能	d. 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して図表などにまとめたりしている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	課題への取り組み	定期考査 発表	定期考査 レポート	定期考査
	〔主題学習〕	〔主題学習〕	〔主題学習〕	〔主題学習〕
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点に適切に配分し、評価します。				

#### 4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	私たちの生きる社会	1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a 地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 b さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて、教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 c 環境問題への国際的取り組みを踏まえ、自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 d 地球温暖化対策への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
		2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして	○	○	○	○	a 資源の有限性について理解を深め、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 b 資源・エネルギー問題について、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 c エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し、省エネルギーと循環型社会について考える。 d 資源・エネルギー問題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	
		3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	○ ○	○	○	○	a 科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたかを考える。 b 医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考える。 c 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるか新聞やインターネットなどで調べ、それらについて現状と課題とまとめる。 d 生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解させる。	
		4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	○ ○			○ ○	a 高度情報社会とは何かについて理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について、新聞やインターネットなどを使って調べ、理解する。 d 高度情報社会で生きていくために必要な知識を身に付けて課題についてどう取り組みばよいか考えることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	
	青年期と自己の形成	①青年期とは ②青年期を充実させるために ③伝統や文化とのかかわり ④祭りや年中行事 ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	○ ○	○	○ ○ ○	○ ○	a 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 b 一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。 b 伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 c 職業のもつ意味、社会に参加することの意義について書籍やインターネットで調べ、一人ひとりが社会づくりに参画していく必要のあることを理解する。 d 生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	個人の尊重と法の支配	①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権の保障 ④世界の政治体制	○ ○ ○ ○	○		○ ○	a 私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 b 基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 d 世界のおもな政治体制について教科書の図などを使って理解し、真の民主政治の実現と関連させて考察する。	
	現代の民主政治と政治参加の意義	①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a 日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 b 平和主義をめぐる、どのような動きがあったのかを理解する。また、自衛隊をめぐる問題について理解する。 b 日米安保体制はどのような背景から生まれ、どう変化してきたのか理解する。 b 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について調べ、その解決策を考える。 c 基本的人権と公共の福祉の関係について理解し、社会における望ましい解決策を、新聞などさまざまな情報手段を活用して調べ、話し合う。 d 社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また、新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。	
		⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a 議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会について理解する。 b 議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要かを考える。 c 裁判所のパンフレットなどを入手して裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。 d 憲法を守るための裁判所の権限について理解する。	

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2学期	現代の民主政治と政治参加の意義	⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	○	○	○	○	a 地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について自分自身の問題として具体的に考える。 b 住民にとって生活しやすい政治のために必要な行動を話し合う。 c 国民が政治に参加する方法にはどのようなものがあるかさまざまな手段を使って調べる。 d 国会議員の選挙制度はどのようなしくみか、また、どのような課題があるのかを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	国際政治の動向と日本の役割	①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和	○	○	○	○	a 主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について主体的に理解する。 b 国連の成立、役割と課題について理解する。 c 第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 c 核兵器を廃絶するためにどのような取り組みがおこなわれているか、また、国際平和のために何をしなければならないか、さまざまな情報手段を活用して調べ、まとめる。 d 核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならないかを理解する。	
		⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方	○	○	○	○	a 民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか、人種・民族紛争の実態、難民問題について主体的に理解する。 b 国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 d 日本の外交の基本方針を理解し、アジアの一員としての日本の役割について考える。 d 国際社会における日本の役割、国際社会の一員として何をすべきか考える。	
2学期		①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤国民所得と私たちの生活 ⑥景気変動と物価の動き	○	○	○	○	a 企業の活動内容、企業の負っている社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 b 景気変動について理解し、・経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考える。 c 国民所得について、教科書に掲載されている図版を適切に使用し、理解する。 d 私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 d 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	現代の経済社会と私たちの生活	⑦財政のしくみと税金 ⑧日本の財政の課題 ⑨金融機関のはたらき ⑩戦後日本経済のあゆみ(1) ⑪戦後日本経済のあゆみ(2) ⑫技術革新の進展と産業構造の変化 ⑬中小企業の現状と役割 ⑭食の安全とこれからの日本の農業	○	○	○	○	a 財政にはどのような機能と役割が求められているか主体的に考え、日本の財政の課題は何かを理解する。 b 第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し、現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 c 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 d 中小企業の現状と役割について理解する。 d 政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 d 金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。	
		⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保全へ ⑱消費者問題と消費者主権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	○	○	○	○	a 労働運動の展開と労働基本権について理解し、近年の雇用事情の変化について主体的に考える。 b 雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 b 公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解し、公害を防止するためにはどうすべきか考える。 c 消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて話し合うなど、適切に表現する。 d 消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え、消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 d 日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会の課題について理解する。	

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
3 学期	国際経済の動向と日本の役割	①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>  <input type="radio"/>	 <input type="radio"/> <input type="radio"/>  <input type="radio"/>	 <input type="radio"/>  <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>  <input type="radio"/>	a 自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 a 自由貿易推進のために国際的な協調体制がとられてきた経緯を理解し、国際収支の変化、為替相場の変動が経済に及ぼす影響について理解する。 b 日本の貿易やアメリカ、アジアなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれになが貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 b 南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解し、南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。 c 貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考え、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 d 国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるか理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	民主社会に生きるの倫理	①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	 <input type="radio"/> <input type="radio"/>  <input type="radio"/>	 <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/>  <input type="radio"/> <input type="radio"/>	a 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 a 差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。 b 日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 c 人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社會を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料を適切に使用する。 d 平等な社会の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。	
	ともに生きる社会をめざして	①社会保障と消費税 ②震災から復興への道のり ③人口問題と私たちの未来	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	 <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/>	a 教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり、捕鯨問題について考えたり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 c 調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。	